

### 第3回鶴岡市総合計画審議会 概要

○日時 平成26年2月17日（月） 10:00～12:00

○会場 グランド・エル・サン クリスタルホール

○出席者 鶴岡市総合計画審議会委員 27名  
鶴岡市総合計画審議会幹事等 26名  
鶴岡市事務局 5名

1 開会

2 あいさつ

3 協議

(はじめに事務局説明)

○石黒慶一会長 どうもありがとうございました。ただいま事務局より資料についての説明をしていただきましたが、先程、私が申し上げましたように、本日の協議は資料が膨大なものから区切っていろいろなご意見をいただきたいと思っております。委員の皆さま方には事前に資料を配付しておりますので、お目通しの上、本日の会議にご出席したものと思っております。

それではまずはじめに、資料1の1ページ、1「計画の策定趣旨と構成等」から5「計画推進のために」の26ページまでの部分についてご意見を伺いたいと思います。

何かご意見のある方、いらっしゃいますか。

たびたびこの審議会で最初に私から指名させていただいております、この計画において企画専門委員会で検討していただいた平委員、全体的なことに関して何かご意見ございませんか。

○平 智委員 意見というよりもお礼にあたるものかもしれませんが、企画専門委員会でも活発な議論をいただきました。特に3回目の企画専門委員会は非常に活発な意見をいただきまして、時期的にも切迫していたのですが、その意見をよく汲み上げていただいているかと思えます。

その中で、複数出た強い意見とございますか、主な意見は計画書の「本市を取り巻く状況」のところ、ここの記載は政令指定都市を含めて全国どの地方都市にも当てはまる状況ではな

いかというようなことで、むしろ「本市を取り巻く状況」ということを言うのなら、鶴岡が最近力を入れて取り組んでいるいろんな施策、その中間的な状況もこの説明の中に入れて、あまりネガティブなところ、大変な状況だからこうだということだけではなく、その中でも鶴岡はこういうようなことを目指してここまで取り組んできたというようなところも表現してほしいというような強い意見がありました。

それを事務局の方で考えていただいて、5ページに繋ぎの文章を入れていただくと同時に、6ページの冒頭にその部分を加筆していただきました。個人的にはもっとこの部分が膨らんでもいいのではないかとこのふうにも感じますが、こういう状況の中で以下の「ルネサンス宣言」にさらに取り組んでいくのだというような記載に修正していただきました。

それともう一つ、鶴岡総合研究所の方で主管しております鶴岡まちづくり塾の中でも活発な意見をいただきました。企画専門委員会の中でも出たのですが、鶴岡まちづくり塾の中でも出た複数の意見としては、これらの計画を市民の皆さんに知らせる普及版的なものを今後作成するという事になるかと思いますが、そのときにできるだけストーリー性も含めた単なるドライな計画書ではなく、鶴岡が今置かれている現状、ここまで推進してきた施策のあり方なども含めて、できるだけ分かりやすいビジュアルの普及版を作ってもらって、市民の皆さんにも今後5年間の計画を共有できるような、よく知ってもらえるような、そういうものにしていただきたいという意見がありました。以上、御礼と今後の計画を市民の皆さんと共有するためのお願いを述べさせていただきました。

○石黒慶一会長 どうもありがとうございました。いろいろ慎重なご協議をいただいておりますことを感謝申し上げます。

今の部分においては、14ページからずっと藤島から温海までいろいろな地域振興について書いてありますが、各項目ごとで結構ですので、何か気がついたところがありましたら、それぞれの地域振興審議会の会長さんも出席されておりますので、ご意見があれば承りたいと思います。

特にございませんでしょうか。

それではご発言がないようですので、次に移らせていただきたいと思います。

次は27ページ、第1章「市民生活分野」から第2章「健康福祉分野」の50ページまでの部分についてのご意見をいただきたいと思います。

この部分について、ご意見のある方はおいででしょうか。挙手でお願いいたします。

○本間仁一委員 27ページ・28ページにはコミュニティについて記されておりますが、近年の住民の帰属意識の低下、それから価値観の多様化ということからリーダーの育成も非常に大事だとは思いますが、それよりも団体への参加者が非常に少ないために、市民といいますか、住民の意識改革といいますか、その辺が非常に大事になってくるのではないかと考えております。突拍子もない言い方をすれば、例えば若いときからの学習とか、教育の場での中学校時代の教えとか、そのような若いときからの意識改革というものが非常に大事になってきて、

それが繋がってくるのではないかと考えております。

それから先程、平委員から話がありましたが、市民への取り組み方については非常に大事ですし、なんとかこの辺は基本計画を進めるにあたって徹底してやっていただきたいと思ってきましたところでございます。以上です。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

その他、ご意見ございませんか。

○三浦 惇委員 33 ページ、「資源循環型社会の形成」ということで、若干お聞きしたいと思いますが、先程からお話ありましたように、非常に生活に密着した重要な課題だと思っております。とりわけ現社会においては大量生産・大量消費・大量廃棄ということでこれらをどうするか大きな課題になっているわけです。そういう形の中で、現在、焼却炉の建設ということで熱エネルギーへの転換みたいな書き方がされているわけですが、言ってみれば、第3のリサイクルという熱エネルギーを活用するということになるのではないかと思います。ただ、私が心配するのは、これと同時に、ここに「延命化」という言葉を使っていますが、一般廃棄物の処理施設の関係が、あるいはリサイクルセンターの関係が、総合計画が終わる前後に、おそらく限界に達する時期にきているのではないかと考えています。そういうことを考えると、延命化とかいろいろありますが、関連する一般廃棄物の基本計画、それから環境基本計画が、30年で終わる後期の総合計画の前に終わることになります。その延長上から考えますと、これらを含めた基本計画の変更ということになるとすれば、先程申し上げました廃棄物の最終処分場の関係、あるいはリサイクルセンターの関係も若干前から提起しましたように触れておく必要があるのではないかと思います。ただ「延命化」という言葉でいいのかどうか、その辺議論になっているのか、専門委員会の中では分かりませんので、その辺について若干お聞きしながら、それらを踏まえた、先程申し上げました一般廃棄物の基本計画、それから環境基本計画の変更を併せてしていかなければなりませんので、その辺の関連性について一つお聞きしたいと思っております。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。ただいま三浦委員の方から質問がありましたが、質問があったような内容について、専門部会等で話し合いがあったかどうか、もしあったら事務局の方からご回答をいただきたいと思っております。

○市民部長 市民部長の上原でございます。専門部会の方では特段そこまで細かい点までは話はなかったのですが、今、三浦委員から言われましたとおり、現在の廃棄物処理施設が老朽化しているということなものですから、それについて、昨年度、24年度に長寿命化計画を策定しまして、その施設を改修した方がいいか、また新たな方向で建設した方がいいかというような調査をさせていただきました。

その中では、新しい施設を建設した方が効率的だという結論に達したものですから、その

中で、今、構想づくりをしているということでございます。新しい施設の構想につきましては、単なる施設を作るのではなく、エネルギーの活用を含めて、これからのごみ処分をどうしていくかというところまで含めたような形で構想を作っていきたいと思っておりますので、その中で考えていくというような状況でございますので、その辺についてはご理解いただければと思っております。以上でございます。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。三浦委員、いかがですか。

他に何かご意見ございますか。

健康福祉分野でご意見をいただきたいと思いますが、難波委員、何かご意見ございませんか。

○難波玉記委員 3ページの「本市を取り巻く状況」の中で(1)「少子高齢化を伴う人口減少の進行」とありますが、今回新たに38ページ、第2章第1節(1)「少子化対策の推進」と(2)「子どもの健やかな成長の促進」、そして(3)「仕事と子育ての両立支援」ということで、具体的に新たに出てきたわけでございますので、これは一歩前進ということで私は評価していいのではないかと思います。以上です。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

他に何かご意見ございますか。

私も医療分野に関与しているものですから、少しご意見を言わせていただきたいと思いますが、今、健康の分野で「医師や看護師の数の確保」ということが、この中によく謳われておりますが、それは大変重要なことだと思います。ただ、今、医療は単業種だけで医療ができないということがあるので、日本において先駆的に多業種、多医療業種の連携ということは今後鶴岡市としては考えていった方がいいのではないかと私自身は思っているところでありますが、その辺について何か事務局で今まで話し合ったようなことでご報告できるようなものはありますか。

○荘内病院事務部長 荘内病院事務部長の板垣と申します。医療従事者の確保という点につきましては専門委員会の方でも様々な意見等を頂戴いたしたところでございますが、ただいま会長の方から多業種、様々な職種のことでの連携というようなお話がございました。特に庄内の場合は緩和ケアの推進というような事業に取り組んだ経過がございまして、多業種による様々な連携というようなものがかなり他の地域よりも進んでいるのではないかとというようなご意見も委員の中からあったということでございます。

そのようなことから、そうした経験なども活かしまして、医療に従事する様々な職種が連携をしてこれからもこの地域の全体の医療を支えていこうというような方向性、あるいはこれは地域ケア体制の構築というようなことにも繋がっていくのではないかとというようなことで、そうした取り組みを継続していくべきであろうというような議論があったということで

ご報告させていただきたいと思います。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。いずれにしましても、医療においては患者さんを中心に置いて医療を考えなければならないというのが私は基本だろうと思いますので、その辺のところもこれから検討していただければ幸いというふうに思うところであります。

他に何かございますか。

なければ次に 51 ページ、第 3 章「教育文化分野」から第 4 章「農林水産分野」の 71 ページまで、教育文化分野、それから農林水産分野についてご意見をいただきたいと思います。

○奥井 厚委員 温海審議委員の奥井です。少子高齢化に伴って、小学校の再編が進んでいます。子どもが少なくなって小学校を統合したいということでございますが、旧温海町でも小学校が三つほど温海の方に統合することが決まりました。旧町村でも統合が決まっているということで、平成 26 年度からそういう話がどんどん出てきているようですが、それらの再編計画に伴う実施をうまくできるような話し合いをしているわけでございますが、一番心配なのは小学校の跡地利用がうまくできるのかどうかということです。教育委員会の方でもその辺をこれから進めるという話はしていますので、総合計画の中にもこの辺の部分を少し触れるようなことがあればというような感じを受けたところです。

それからもう一つは、庄内で、今、寒鱈汁が大変全国的に有名になっています。そういったことで、今、加茂の水族館も今年からオープンするというところでございますが、県の魚でありますサクラマス、これを加茂水族館オープン辺りからでも結構ですが、全国に PR できて、料理に出すことはできないかどうかという話が温海の審議委員の中でも話が出ましたので、季節限定でも結構だと思いますが、ああいった美味しい魚を加茂水族館で試食させるような、料理を出すような方策なども少しお願いできればなということでございます。

○石黒慶一会長 回答が必要ですか。

そういうご意見があったということで終わらせていただきたいと思います。

それでは、他に「教育文化分野」で誰かご意見ございませんか。

田中教育委員長、何かご意見はございませんか。

○田中芳昭委員 この基本計画を補強する、もしくは具現化するというところで、現在、平成 26 年度の鶴岡市教育委員会の基本方針を作成しております。その中で一番大事なのが、今お話にもありましたが、少子化における人材育成、これをどうするかということだと思っています。51 ページにも書いてありますように、「主な施策」の②、学習への関心と意欲を高めるために、すべての子どもに基礎基本を確実に定着させる、確かな学力を身につけさせる指導というのが基本的に大事なわけですが、その他に特別支援が必要な生徒、その子達をどう育てていくか、その子達が卒業した後どのような働き場が必要なのかというところまで、次の 53 ページの③のところ踏み込んでいただいたのは大変ありがたいと思っております。

前回、私の発言の中で少し言葉足らずだったのですが、例えば知的障害とか、障害を持っている子ども達に対する支援というのは、今、国の方でもあるわけですが、いわゆるグレーゾーン、ADHDとか、広範囲自閉症とか、そういう子ども達が就職するときという支援というのがまだなかなかないものですから、そういうところも今後検討していただければと思っています。

もう一つは、先端研とか、大学とか、そういうところと連携していく上での致道館の教育をベースにした小・中・高・大まで一貫した教育という視点も必要かなと思っています。以上です。大変よくまとめていただきましてありがとうございます。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

他に何かご意見ございませんか。

○稲泉眞彦委員 稲泉ですが、スポーツに係わることにに関して少し発言させていただきます。

国のスポーツ基本法が改正されて、それに基づいて国及び県のスポーツ推進計画が立案され、目下、鶴岡市のスポーツ推進計画が最終段階にきている状況にあります。その柱になっているのは四つありますが、今回、この計画を見て今までであった三つと、それからこの分野ではありませんが、11 ページ、安心文化都市の中で「スポーツ環境づくりの推進」という項目も挙がっていますので、特に問題はないのかなと思います。それらが相互作用して、ますますスポーツの盛んな都市として活躍していきたいものだなと、私も体育協会に係わっている者として思います。

それから特に二つ、一つはオリンピックに係わる件を入れていただいております、トップアスリートの育成、これは今までも目標には掲げていたことではありますが、特に体育協会としてみれば、オリンピックに出る選手を育成する、それに極めて近い選手はこの地区に現在いる、それも複数以上いるという状態を考えると、このことを挙げていただいたのは大変ありがたいし、一層市民に対しても働きかけていきたいものだなと思います。それから合宿の誘致等も掲げてありますので、大変困難かとは思いますが、是非早期に取り組んでいかなければならないのではないかと思います。

もう一点であります、昨年「チャレンジデー」を実施しました。これは今年は確か第2回として5月22日の木曜日に実施ということで、委員長は市長になっております。私もその委員をしておりますが、この取り組みは笹川スポーツ財団が支援して、昨年、理事長でしたか委員長、小野清子さんが本市とも大変深い係わりがあるということで取り組みだした活動であります。5月22日、朝から夜までの間に、いかに市民の多くがスポーツに15分以上取り組んだかということでありますが、必ずしも、手足を振り回すようなスポーツだけではなく、歩く、散歩する、そういったものも含めたチャレンジであります。このチャレンジは若い人だけではなく、中高年、特に高齢者にとっても参加できるチャンスですし、このことを契機にしてコミュニティが健康に気をつけていく、あるいは健康を確保していく、そういう取り組みにもなるので、是非、これらに力を入れていただければということで、場合に

よってはオリンピック等とともに記載していい事項ではないかと、そのように思います。以上です。

○石黒慶一会長 貴重なご意見ありがとうございました。

他に何か「教育文化分野」でございますか。

○齋藤春子委員 教育ということでしたので。子育ての問題は家族だけではなく、地域全体で大変大きな問題だと考えていると思います。私、家の方々とそういう話題で話しているわけではないのですが、「今の学校教育は我々には見えてこない。」というご意見が相当出てきています。「学童保育って一体何だ」とか、それから「子育ての家庭支援センターはどこにあって何をしているものなのか」とか、そういう声があります。子どもと一緒に暮らしている家族であっても、最近では親が子どもを守るのだから、3世代であっても家族は知る必要がないみたいな感じで、祖父母は孫の教育から離されているのではないかと感じております。家族や地域の問題なのかもしれませんが、やはりみんなで同じ方向に行くよう体制でいくべきではないかと思えます。そういったことも大きな問題なのかなと思いましたので、改めて述べさせていただきます。

○石黒慶一会長 ありがとうございました。大変重要な視点でご意見をいただいたと思います。

他に何か「教育文化分野」でありますか。

なければ「農林水産分野」の方に移りたいと思いますが、何かご意見ございませんでしょうか。

○今野 毅委員 私、関係者でありますので、全体的な中でお聞きしたいことがあったのですが、考え方としてですが、「環境保全型農業の推進」ということで、63 ページのところについて先程説明がありましたが、この中に関するところで、新規の取り組み者、環境保全型農業へのという捉え方だと思えますが、この中でこういった取り組みをする方への「収量減への補てんやメリット措置により」という形の中で進めるということですが、これは一体どういったことを形として想定されているのかを1点お聞きしてみたいと思います。

それからもう1点は希望という形になるのかもしれませんが、その下にある消費者、あるいは小中学生に対する講座や実習の開催について、これは市の方で主体的になされるという捉え方なのか、私どもも関係する部分で、その辺を具体的なイメージとしてどういった形を構想しているのか。

それからもう1点ですが、これは農業に限らず産業全体に係わることもかもしれませんが、海外に向けた様々な特色ある鶴岡の農林水産物、畜産物も含めて、こんな形の中で海外に向けた取り組み等々という部分が果たしてどこかにあったのか。これに対する取り組み、当然、市長の方にも農林水産の関係ではいろいろなところでトップセールス等に時間を割いていただいているわけですので、そういったことなども含め、積極的にそういったことを6次産業

化も含めてこういった取り組み方が必要なのではないかと思います。取り組みます、考えますというような、それに対するお考えがありましたら、どこかに書いてあるのでしたら教えていただきたいことも含めてご意見なりお願い申し上げたいと思います。以上です。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。ただいま3点ほど質問がございましたが、これについて事務局の方、回答をお願いしますか。

○農林水産部長 農林水産部長の五十嵐といいます。

ただいま組合長から3点についてご質問がございましたが、1点目の「メリット措置」云々につきましては、一つには転作のカウントでありますとか、そういった中で市農協さんの場合は全体として取り組んでおられますが、個人個人に対するメリット措置とか、そういったことを踏まえてのことでございます。

それから2点目につきましては、私ども単独で行うということではなく、協議会をこれから設置いたしまして、その中で両農協さんからも入っていただきながら行っていきたいと考えてございます。

それから3点目の海外に向けた取り組みはどうかということにつきましてはですが、これにつきましては第5章の方で、そこに限って触れているということを今回しなかったはずなのですが、そのことについては今後、この基本計画に基づきまして「鶴岡アグリプラン」という振興計画がございしますが、その中で謳っていきましようということで考えているところでございます。以上でございます。

○石黒慶一会長 ただいまの回答で、再度質問ございますか。

○今野 毅委員 2点目の件ですが、協議会を作ればいいというものでもないかもしれませんが、こういった部分はずっと連綿とした体系の中で取り組んでいくということでの協議会でしょうから、是非そのような形で鶴岡の特色ある環境保全型農業という部分、一つこれについてはさらにお願いを申し上げたいと思います。

話をすればいろいろとあるのですが、トータル的にはいろいろな視点で書かれておりますので、是非こうなることに私も関係団体としては、農協としては尽力していきたいと思しますので、行政の方にもよろしくお願い申し上げたいと思います。以上です。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

他に何かありますか。

なければ、次に72ページ、第5章「商工観光分野」から第6章「社会基盤分野」の最後のページ、90ページまでの部分についてご意見を伺いたいと思います。

○早坂 剛委員 資料の総合計画に則って商工会議所の方も地域計画というのをもう少し深掘りし



て作って参る予定でございます。

質問といたしましては、これから少子高齢化になっていって、特に少子化を解決するには女性の力をもっと借りなければいけないと思うのですが、そのために子育てをする保育関係とか、小学校・中学校の教育費の問題とか、そういうことを共稼ぎしながら働いていくということのこれからの補助といいますか、そういうことのカバーみたいなことが、これからどんなふう考えられるのか、まず第1点。

それから第2点は、高速交通ネットワークの件でございますが、これは鶴岡市だけの問題でなく、酒田市、庄内町、庄内全体で考えていかなければならない問題だと思うのですが、今、問題になっているのが、酒田市が山形新幹線の延伸ということを非常に強く打ち出しているわけでございます。私達、会議所等、また、鶴岡市の方も延伸ということに関しては問題にあまりしていないと思うのですが、新幹線を延長とするならば、庄内羽越線の方が先決ではないのか。それよりも、道路が先ではないかとも思うのですが、その辺のところ酒田市の方の会議所の方とも話をしますと、特に本間市長はどうして鶴岡市は反対するのだというようなことを言われるものですから、この辺のところの調整を庄内一つとしてまとめていくようなことも考えていかないと、県庁の方からみると、庄内は喧嘩しているからなということでも軽くみられてしまって、なんといいですか、まとまらないことについてはそんなことはどうぞ勝手にやってくださいという言われ方をするようでございますから、今日は市会議員の先生方もいらっしゃるわけですから、その辺を行政、議員、それから県会議員、一つまとまって庄内のインフラ整備というものをまとめていくようにちゃんとしていかないと、ますます庄内は遅れていくのではないかと、そんなふうに思いますので、是非、市長の方からもよろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

○石黒慶一会長 今、2点ほどご質問がございましたが、まず一つは少子高齢化に向かって女性の育成といいますか、女性の働く場を作るといようなことは今までの会議等でその辺のところは検討があったかどうかお話をさせていただきたいのと、それからもう一つは高速交通網について、現状はどうかということで、これは後で市長からお話をさせていただきたいと思いますが、最初の少子高齢化についての検討の内容について、事務局の方の担当部署でお願いします。

○商工観光部長 商工観光部長の佐藤と申します。

女性に限るということではなく、全体的な雇用の場の拡充と申しますか、そういったことは専門委員会の方でも少し話題になりました。それで、第1節の「若年層の職業意識」等の欄のところに③・④ということで、特に若年者を対象とした無料職業紹介所、これはかなり前から要望等が上がっていた事項でございまして、平成24年・25年から開設をして、特に力を入れていこうというものでございます。

それと、委員からも以前からご指摘ありましたように、高校生の就職についてはある程度の数字的なものを捉えているところではありますが、一旦、大学に進学をして、その後、果た

して地元にとどのくらいの方々が帰ってこられているのかといったような質問が確かあったかと思いますが、そういったことを少し、これは市だけではなく、商工会議所さん、それから県の庄内総合支庁といったような各機関、ハローワークも含めてということになるかと思いますが、そういった総合的に取り組んでいくべき事項だというようなことから、ここに新たに項目を一つ起こして、Uターン対策も充実させていこうということで書き込みをさせていただいたということでございます。

交通問題は市長の方からということによろしいでしょうか。

○石黒慶一会長 榎本市長、お願いします。

○市長 交通問題の前に、もう一つだけ若い人達が子育てをしやすい施策の展開としては、昨年、第一弾として第3子の保育料に取り組みました。今年はこれから明日議会に内示なものですから、本来はこの発言が議会軽視といわれる可能性があるのですが、かねての懸念でありました医療費につきまして、今までは未就学児、小学校に入る前の子ども達については医療費完全無料化に取り組んでいたのですが、やるのだったら思い切り中学校3年までやろうということで、現課の方からの提案も含めて、26年度からは議長含め、議員の皆さんのご了解をいただければと思います。中学3年生まで完全無料化に取り組んで、若い人達の経済負担を少しでも軽減できればと思っております。

それから高速交通網につきましては、私どもも酒田市長が提案することに対して反対しているわけではありません。高速交通網といいますと、早坂委員がお話になったとおり、この庄内の抱えている高速交通網の問題は、一番はやはり高速道路をいかに早く繋ぐかということなのだろうと思っております。そして高速道路のみならず、国道47号、つい先日も通行止めになった関係であります。それから112号も今年も通行止めになっていませんが、通行止めの可能性があるとするれば、やはり日沿道の早期完成と横軸をもう一度強化していかなければならないと思っております。

それから二つ目は、これは課題になっていきます、ここにも書かせていただいておりますが、庄内空港、インバウンドをどう深めていくか、交流人口を増やしていくことが庄内の発展に私は大きく関係するのだろうと思っております。

そして三つ目は鉄路をどうするかということなので、そして交流人口を増やすとすれば、域内交通の山形新幹線の庄内延伸よりも、新潟から、あるいは新潟を含めて関東、東京から、あるいは秋田との連携を考えた場合、これは時間のかかる問題かもしれませんが、羽越本線の本格新幹線に取り組んでいくべきだろうと思っております。そして羽越本線につきましては、新潟県や、あるいは秋田県と長い運動の歴史があります。そして新潟県からは、今、新潟駅での連続立体交差に取り組んでいただいております。これは鶴岡市が、あるいは山形県が負担をしているわけではないので、新潟県としてもやはり上越新幹線のバックヤードとして庄内に対しての非常に大きな期待を持っているとするれば、我々はそういう関係から新潟県に対して、あるいは新潟市に対しても支援をしていく上で、羽越本線の本格新幹線とと思っ

ております。決して、陸羽西線の庄内延伸がまったく反対である、経済効果がないというわけではありませんが、ただ、域内交通だけということをおっしゃると、今おそらく庄内に延伸しても山形から1時間14・5分かかるといわれておりますので、夏の期間であれば、私ども県庁に行くのも1時間15分前後で行きますので、もう一つ言うならば、112号線のおダブルネットワークを構築する上では日沿道が完成した後は湯殿山インターから月山インターまでのトンネルを掘ってほしいというのが鶴岡の大きな要望になるのかなと思っておりますので、酒田市が独自で頑張られるのは決して否定するわけではありません。つい先日も酒田市長には、私のところだけが反対ということではなく、庄内町、あるいは三川町、直接三川町には鉄路が通っているわけではありませんし、遊佐町とか、あるいは沿線になります戸沢村、大蔵村、それから鮭川村を無視するわけにはいきませんし、新庄市の思いも含めてご検討いただければと、酒田市長には申し上げました。反対はしませんが、ということですので、反対しないのだったら賛成しないと同じではないかと言われるかもしれませんが、そういうことではございませんということでご理解いただければと思います。

また、県知事の方には、県知事が申し上げている、私は羽越本線と奥羽本線の本格新幹線が当然だろうと思っております。昨年も鶴岡市に訪れてくれた江戸川区の皆さんのお話を聞きましたら、「山形新幹線といっても山形まで2時間半もかかるのだったら、とても遠くて」というような話ですので、「板谷峠を87キロでゆっくり走ってきたものだから景色を見る上では面白かったけれどね」と慰めをいただいたようなものですから、まずは山形まで私は本格新幹線を山形県としてやるべきだろうと思っておりますので、このことについては、私は鶴岡市長としての思いでありますので、鶴岡市民にそれを強制するというわけではなく、ただ、鶴岡市民の中でも陸羽西線で早く行ければと思う人もいますので、それらの意見も大事にしながらか、鶴岡市としてどうあるべきかということについて、早坂委員なり、あるいは総合計画の審議会の委員の皆さんからのご意見もいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

他に何か「商工観光分野」でご意見ございますか。

○齋藤春子委員 農業とか観光ではないのですが、市長の顔を見ていたら是非お願いしたいと思ったのは、100歳になると市長から賀詞いただけるということで、大変嬉々として喜んでいますが、子どもを多く産んだ方も、是非市長から直接祝辞をいただけるような制度を作ってはどうかと思います。私の方に昨年、4人目の子どもを産んだ方がおります。絶対5人産むのだといって頑張っております。その奥さんは農家が好きで東京から出てきて、皆さんご存知かと思いますが、昨日、一昨日、私のところに来て、来年1年生に入るし、1年生の子は2年生になるから、二人とも4月になると農家が忙しいから今のうちの書道教室に入れる手続きをしたいのでお願いしますと来ました。嬉々としてその子どもを育てております。そういうのを少し褒めてやってはいただけませんか。

○石黒慶一会長 市長、市議員の皆さん方、今の切実な願いを是非頭の中に入れておいていただければと思います。

○東山昭子委員 分野別という部分ではありませんが、先程、早坂委員のおっしゃったこと、齋藤委員のおっしゃったことと関連して、今回の中では男女共同参画について一段力強い施策の展開を図られるよう見えてきているかなと思いますが、この部分をしっかりと進める中で、女性達の産んで育てること、それから働いて自分達の生計をたてていけること、そして地域の中で皆さんの力が認められていくこと、そういったことも含めて、特に旧市内の部分のところでは既存の婦人団体の動き方が変容せざるを得なくなっている状況もありますので、是非、共同参画に対する今回の施策の中で述べられている部分を前進させていただきたいと思います。その中で総合的に女性の抱えている、あるいは男性と共同することなしには進められない部分をきちんと時代に対応していけるような形で進展できていければという強い願いを持っております。若い人達の力も含め、すべての年代の方達がいきいきと動いていけるようにという計画の推進のためから具体的な施策のところまで出ておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。以上です。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

それでは、今回から新しく委員になりました青年会議所の今間委員、何かご意見ございますか。特に分野は指定しませんので。

○今間智寛委員 鶴岡青年会議所で花火大会を頑張っているのですが、昨年も過去最高の来場者が来てくれたということで、日本一にますます手が届きそうなところまできておりますので、観光の面でも花火のことを是非入れていただければと、次回でもよろしいので検討していただければと思いました。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

他に何かご意見ございますか。

○稲泉眞彦委員 私の専門とする分野ではありませんが、「観光客受け入れ環境の充実」というところの78ページ、④、「山形DC」云々という最後のところ方に「気遣いや思いやり、もてなしの心」とありますが、このことに関しては地震その他の中で日本人の心ということで世界的にも評価を受けたことであり、それから同時に、鶴岡市民もそういう高いレベルの心を持っていると思いますので、このことに関連してですが、道路の整備だとか、景観の整備、その他、鶴岡市は長い時間をかけて観光資源の一つとして取り組んできたと思います。

そういう中で、ただ一つ欠けていることが、ただ一つかどうかはともかく、それは交通マナーです。交通マナーに関しては30ページだったでしょうか、「交通安全教育の推進」とい

う項目がありますが、このDCキャンペーンに係わって、是非交通安全キャンペーン、とりわけ歩く人を守るというような観点から歩道のないところ、あるいは横断歩道などでの安全といった面のキャンペーンに是非取り組んでほしい。お客さんを招くという取り組みと同時に、市民もそういう心で、残念ながら、横断歩道に人が足を踏み入れても止まらない車が圧倒的に多い鶴岡市というのが現状でありますし、私も友人その他が鶴岡市にたくさん来る立場にいて、大変恥ずかしい、ここは極めて不思議なところだと何人からも言われている状態で、この機会に是非、交通マナーというものを取り組んでみてはどうかと思います。この取り組みに関しては、そんなに膨大なお金がかかる問題でもないし、絶好のチャンスではないかと思えます。そのことによって鶴岡市の死亡事故が結構高いと私は思いますので、それらも防げると思えますし、同時に、そういう都市に移り変わるチャンスではないか、これらに関しては警察、その他の協力も当然得ていかなければなりません、キャンペーンとして、市として是非広報等を使いながら取り組んでいただけないかということで、細かい点ではありますが、チャンスだと思って発言させていただきました。以上です。

○石黒慶一会長 ありがとうございます。

今日、まだこの会議でご発言をしていない方で、何かご意見があれば全体を通してでも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

○菅原 勝委員 私は森林組合でございますので、森林に関して要望、また、御礼を申し上げたいと思います。

まず第1点は、今、林業は生業としては非常に厳しい時代に入っております。しかし、今ここにきてバイオマス発電がいよいよ着工となります。これは榎本市長はじめ、鶴岡市の肝いりで始まるわけでございます。山形県第1号でございます。本当にありがとうございます。

そしてもう一つは、このバイオマス発電が稼働する暁には、林道、作業道等、いろいろな道路が整備されます。そのために一般の人達が森林に関心を持ちながら山に入っていくのは大変結構でございます。しかしながら、もし万が一、この東北で一番面積の広い山が一旦山林火災等になりますと、非常に厳しい体制だと私は思っております。やはり消防団、また、消防署で資機材は充実しておりますが、いざ山に入るとその資機材は相当能力が落ちます。テレビ等で見るとおり、ヘリコプターで防火剤を散布しないと山林火災が防げない、そういうこともございますので、是非、山林を守るという訓練をしていただきたいと思います。バイオマス発電に対してはありがとうございました。御礼を申し上げたいと思います。

○石黒慶一会長 どうもありがとうございました。

それでは、西澤委員、何か。

○西澤 隆委員 山大農学部、西澤でございます。

我々のところは大学ということで、これからも是非鶴岡市とはいろいろなことで協力してやっていきたいと思っておりますので、是非今後ともいろいろなご支援を賜りますようお願いいたします。

最近の国の施策といたしましては、国際交流というのを非常に強調されておまして、我々のところからもっと外国の大学に出ていく、あるいは外国からの留学生を迎え入れるということで、そういうことが国の施策の重要課題の一つというふうになっているのですが、我々のところは昔から規模としてはかなり留学生の方が多いところでありまして、しかも、アジアだけでなく、アフリカ諸国のようなところからも来られております。先週はルワンダ大使の講演があったのですが、お聞きしましたところ、ルワンダからは17名の方が留学に日本に来ているそうです。すべての分野を入れて、その内の4名が山大農学部にいらっしゃるということで、私もとても驚いたのですが、非常にパーセンテージとしては高いところだなというふうに思いました。

最近はそういうこともございまして、長期の留学生も勿論いらっしゃるのですが、短期の留学生の方もかなり増えております。これは我々のところが一度に、例えばレグリープログラムというのですが、卒業するようなプログラムですと4年ですとか5年というふうに受け入れなければいけないのですが、そういう方がいきなり来てもなかなか日本の文化に馴染めないような方もいらっしゃいますので、そういう面で見極めが難しいものですから、短期で半年間とか1年間受け入れまして、それで大体人物ですとか、能力を見極めて、それで一度帰っていただいて、もう一度、今度は3年とか5年のプログラムで来ていただくというようなことを推進しているわけなのですが、留学生が短期で来られたときの宿舎というのが非常に問題になっております。我々といたしましては留学生用の宿舎というのを準備しているのですが、せいぜい入っても10人くらいでございまして、なかなか全部の方を入れるというのは難しい状況です。

長期でしたらアパートを契約してということもできるのですが、短期ですと、非常にお金がかかるということでございまして、市長にもこの間少しお話をさせていただいたのですが、鶴岡市は空き家対策のこともございますので、その辺のところでお互いにいろいろないい知恵を出し合っていけば、少しはお互いにメリットになるような解決策も得られるのではないかと考えております。以上でございます。

○石黒慶一会長 どうもありがとうございました。

他に何かご意見ございますか。

○竹内峰子委員 今回の資料の59ページのところに「都市交流」というのがあります。その中を見ながら、実はかれこれ20年近くにもなるのでしょうか、江戸川区との交流ということで、三瀬の小学校を中心にしながら江戸川区の子ども達を招いての2泊3日でしょうか、三瀬では八森を利用しての宿泊、そして翌日辺りに田川のそば打ちだとか、そういったものを経験していただいたというときがあったのです。今考えてみると、その子ども達がなぜ鶴岡にいらっ

しゃったのかということになると、鶴岡の方に震災の際の避難ということで、長く鶴岡にいた方々を軸にしながら江戸川区への訪問が続いたのかなと思います。

長年続けながら、ある日突然、今年で終わりますということで、とても残念だと思いつながら、都内にはないような、いろんなものの勉強をこちらの方で提供しながら、鶴岡から 20 人ないし 30 人、子ども達を公募して受け入れていただいて、私の家にもまだ江戸川区で作る様々なものがあるわけですが、子ども達にとってはそこに行くことで家族や修学旅行とはまた違う様々なものを経験し、積んできたのかなと思ったときに、是非再考できないものかと思ったところです。願わくば、社会教育の方でしたか、教育委員会の方の担当だったので、後々そういった話もさせていただきたいと感じています。以上です。

○石黒慶一会長 どうもありがとうございました。

限られた時間なので、もっとご意見があろうかと思いますが、一応、この辺でご意見は終わりにさせていただきたいと思います。

今日、熱心にご協議をいただきましたが、今日の会議の内容について、私なりに中心となる場所は何かと考えたら、やはりこれからは少子高齢化の社会に鶴岡市がどういうふうに対応するか、あるいは男女共同参画の今後の推進といたしますか、そしてまた、先程から言っているように、鶴岡が非常にいい街だというためには鶴岡市民のマナーも考えなければならぬのではないかということが今日の主な議題ではなかったかというふうに私なりにまとめさせていただきたいと思います。

時間も時間ですので、本日いただきましたご意見を踏まえて、本審議会の答申としたいと思います。その最終調整については、私と東山副会長、そして事務局で対応したいと思いますので、ご一任をさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○石黒慶一会長 どうもありがとうございます。そしてご一任いただいた最終答申については、市長に答申書として提出させていただきたいと思います。

それでは、今のところ了承されましたので、3月4日の火曜日に夕方、榎本市長の方に本審議会の答申書を提出したいと思います。

それでは次に、2の「その他」に移りたいと思いますが、何か事務局でございますか。

○事務局 特にございません。

○石黒慶一会長 委員の方々、何か「その他」の項目で何かありますか。ありませんか。

(「なし」の声あり)

○石黒慶一会長 それではないようでございますので、一応、本日の審議会は終了したいと思います。

昨年6月の第1回の審議会以来、委員の皆さまには審議会の運営にご協力を賜り、心から感謝を申し上げたいと思います。

この審議会は後期基本計画の策定後も引き続き3ヵ年実施計画の策定などについて審議をしていく予定になっております。それぞれの委員の皆さま方におかれましては、引き続き市政の発展に向けてご協力をいただくように、私からもお願いをして本日の会議を終了させていただきたいと思います。

会議の進行にご協力いただきましたことを最後に感謝申し上げて、これで議長の座を降ろさせていただきます。どうもありがとうございました。

#### 4 閉会